

授業科目名	2025年度後期	月曜2限	授業コード	1GAD001301
歴史のなかの大阪 / [森之宮]全S				
授業形態	担当教員名			
講義	齊藤 紘子			

### ●授業概要

都市としての大阪は、古代から近現代までの多様な人びとの生活と社会関係がひろがるなかで、大きく変化してきた。私たちが目にする現在の街並みや都市社会の姿は、その延長線上にある。大阪やその周辺地域に残る豊富な史料や歴史的痕跡を手がかりとして、都市大阪の歴史と文化を通時代的・構造的に捉え直してみたい。特に、豊臣秀吉の大坂城とその城下町建設に始まる近世(江戸時代)の大坂は、現代都市大阪につながる直接の基点である。そのため第6回以降は、近世大坂の都市社会と民衆生活について重点的に紹介する。

※本授業は遠隔授業として実施しますが、第14回の大阪市立大学140周年記念展示室見学は杉本キャンパス、期末筆記試験については森之宮キャンパスの教室で【対面】で実施します。各回の授業形態をよく確認して受講してください。

### ●到達目標

歴史研究の方法や成果、考え方などを踏まえて、大阪の歴史や文化の特徴について具体的に説明できる。

### ●授業内容・授業計画

第1回 導入—授業の進め方について【遠隔】

第2回 古代の都市空間…難波宮【遠隔】

第3回 中世の都市空間…渡辺津・四天王寺・堺【遠隔】

第4回 大坂城と城下町の建設【遠隔】

第5回 近世大坂三郷の成立【遠隔】

第6回 近世大坂の「町」…住民の生活と共同体【遠隔】

第7回 商人・職人の仲間・組合【遠隔】

第8回 武家地と蔵屋敷…武士身分と都市社会【遠隔】

第9回 新地開発【遠隔】

第10回 大坂三郷の周辺地域…都市化する村【遠隔】

第11回 かわた村と皮革流通…渡辺村【遠隔】

第12回 四ヶ所垣外の非人集団…御用と勤進【遠隔】

第13回 近世から近代へ【遠隔】

第14回 大阪の歴史と大学…杉本キャンパス大阪市立大学140周年記念展示室の見学【対面:杉本キャンパス1号館】

(展示室との調整によっては授業時間外に設定する可能性もあります)

第15回 展示室見学の振り返りと授業全体のまとめ【遠隔】

期末筆記試験【対面:森之宮キャンパス教室】

### ●事前・事後学習の内容

第1回 事前にシラバスを読んでおく。授業をふり返って大阪平野の形成過程について理解する。

第2回～第14回 【予習】事前配布資料を読む。【復習】授業レジュメ・資料を読み返し、授業で紹介した参考文献なども利用して理解を深める。

第15回 【予習】【復習】は14回目までと同様。加えて、これまでの授業の要点を自分なりにまとめてみる。

試験に向けて学習する。試験のふり返り。

### ●評価方法

・到達目標の達成度で成績評価を行う。

・期末定期試験【対面】60%、授業参加態度(毎回、授業内容の理解度を確認するためのワークシートの提出を求め、期限内にMoodleから提出する)40%

※期末定期試験は【対面】のみで実施し、遠隔での受験は認めない。

・C(合格)となるためには講義内容を理解し的確に答えることができるか、論理的に自分の意見を述べる必要があるかが必要となる。

### ●履修上の注意

・大阪という身近な場所を対象とするので、現在の都市空間を意識しながら受講すること。

・取り上げた場所(史跡や博物館など)に積極的に足を運んでほしい。

・講義内容は、受講者の状況により変更する可能性がある。

### ●教科書

指定なし。毎回、Moodleを通じてレジュメ・資料を配付する(各自で期限内にダウンロードしておくこと)。

### ●参考文献

塚田孝『歴史のなかの大坂』岩波書店、2002年

授業科目名	2025年度前期	水曜3限	授業コード	1GAF030301
観光研究入門 / [杉本]全S				
授業形態	担当教員名			
講義	天野 景太			

### ●授業概要

「グローバル化・ボーダレス化社会における現代観光のナゼ？」をテーマとした観光研究に関する導入的な科目である。観光の歴史と現在に関して概観した後、それらを研究するための視点と方法に関して検討する。前半(第2～7回)は、観光の歴史的展開や、観光という現象が現代社会において成立している背景に関して考察する。後半(第8～10回)は、現代日本の国内・国際観光の実態に関して、各種の調査データ等に基づきつつ概観する。後半(第11～15回)は、観光研究の視点と方法に関して、人文・社会科学的なアプローチを中心として、いくつかの具体的な研究成果を紹介しつつ説明する。

### ●到達目標

21世紀は「観光の世紀」とであると謳われ、日本においても訪日外国人観光客の急増がもたらしたさまざまな社会・経済的インパクトが着目されてきた。しかし、2020年以降における世界規模でのパンデミックの広がりの影響を受け、もろくもそうした時流の崩壊をみたことは記憶に新しい。このような潮流の中で、安易に時流に飲まれたり、目先の現象だけに囚われたりすることなく、総合的(幅広い視野から)、相対的(距離を置いて)に、観光現象の本質を捉えるための原理的な考察ができるようになることが、到達目標である。

### ●授業内容・授業計画

#### 第1回 ガイダンス

#### 第2回 「観光」とは何か～観光を定義する

#### 第3回 旅と観光の社会史Ⅰ～古代から近世に至るまでの「旅人」の相克

#### 第4回 旅と観光の社会史Ⅱ～近代マス・ツーリズムの誕生

#### 第5回 旅と観光の社会史Ⅲ～近代マス・ツーリズムの展開とポスト・マス・ツーリズム

#### 第6回 現代観光を支える社会のしくみ～多文化の繋留・混交点としての駅・空港・世界都市

#### 第7回 観光地はなぜ「観光地」なのか～観光地イメージの構築と、観光資源の類型

#### 第8回 現代日本人の観光スタイルを探る～国際観光アウトバウンド編

#### 第9回 日本を訪れる外国人観光客の特徴～国際観光インバウンド編

#### 第10回 観光政策の役割と「観光立国」論

#### 第11回 観光研究の視点と方法Ⅰ～観光者の心理と行動をつかむ(観光心理学)

#### 第12回 観光研究の視点と方法Ⅱ～自然景観や文化表象の意味や価値をめぐって(観光人類学・文化経済学)

#### 第13回 観光研究の視点と方法Ⅲ～観光地域をデザインする(観光まちづくり論)

#### 第14回 観光研究の視点と方法Ⅳ～楽しみ(愉しみ)方をデザインする(観光メディア論)

#### 第15回 観光研究の視点と方法Ⅴ～おもてなしをデザインする(ホスピタリティマネジメント論)

#### 定期試験

### ●事前・事後学習の内容

#### 第1回 シラバスを読んだ上で参加すること

#### 第2回 過去の体験等に基づいて、自らの「観光」の定義を考えておく

#### 第3回 高校までの日本史や世界史(ヨーロッパ史)の基礎的知識(古代・中世史)を復習しておく

#### 第4回 高校までの日本史や世界史(ヨーロッパ史)の基礎的知識(近代史)を復習しておく

#### 第5回 近代以前の旅のあり方と現代の大衆観光のあり方の違いについてまとめる

#### 第6回 インターフェースの機能を果たす施設や地域の具体例について説明出来るようにする

#### 第7回 観光地イメージが構築されるプロセスについて具体例をもとに説明出来るようにする

#### 第8回 新聞やWEB記事等における最近の観光に関連するニュースに目を通す

#### 第9回 新聞やWEB記事等における最近の観光に関連するニュースに目を通す

#### 第10回 新聞やWEB記事等における最近の観光に関連するニュースに目を通す

#### 第11回 自らの旅の動機や意思決定のプロセスについて観光心理学的視点から説明する

#### 第12回 文化的な観光対象をめぐる研究上の視点を理解した上で、具体的な観光対象について論評を行なう

#### 第13回 まちづくりと観光まちづくりの動機とその手法についてまとめる

#### 第14回 メディアと観光との関わりについて、具体例をあげながら説明する

#### 第15回 ホスピタリティの原意を理解し、個人としてのホスピタリティマインドの実践方法について考える

### ●評価方法

- (1)到達目標の達成度について、コメントシートにおける考察、および定期試験(論述問題)により評価を行なう。
- (2)毎回授業の最後に、コメントシートにその日の授業内容を受けての自らの考察、感想を記してもらう。コメントシートへの回答(30%)と定期試験(70%)で評価する。ただし、コメントシートへの回答数(≒出席数)が通算で11回未満の場合、原則として評点にかかわらずF評価となる。なお、正課授業の課外活動、病気、就職活動等やむを得ず欠席する場合、回答数への配慮はするが、加点は行なわない。授業開始後30分を経過してから教室に入室した場合、コメントシートへの回答権を失うものとする。

(3) 観光をめぐる全体像を理解し、観光という事象にまつわるさまざまな対象について、研究という視点から考察を行なうことが出来ているかどうか合格のための最低基準である。

●履修上の注意

観光研究は、その制度的側面(法学)、経済・経営的側面(商学・経済学)、社会・文化的側面(社会学・文化論)、工学的側面(地域・景観計画)、福祉・医療的側面(ソーシャル・ツーリズム)など、さまざまな視点からの学際的なアプローチが要請されている研究分野である。旅行が好きな人、将来観光に関連する進路を目指す人、ゼミ等で観光分野の研究を志向する人をはじめ、幅広い学部からの履修を歓迎する。ただし、例年すべての授業回に出席した受講生であっても不合格者は一定数出ている。毎回、真剣勝負で講義に向き合い、考察を試み続けていなければ、テストには太刀打ちできないはずである。心して臨んでほしい。

●教科書

安福恵美子・天野景太『都市・地域観光の新たな展開』古今書院、2020年。また、毎回教場にてプリントを配布する。原則として過去の授業で使用したプリントは、後日の回において再配布しない。

●参考文献

教場において逐次紹介する。

授業科目名	2025年度前期	月曜2限	授業コード	1GAG024301
アーツマネジメント / [杉本]全S				
授業形態	担当教員名			
講義	菅原 真弓			

### ●授業概要

劇場の公演や美術館の展覧会、そして音楽会。こうした文化施設で行われる事業に加え、それ以外の芸術文化活動を含めた活動を、広く社会に発信していくための「仕組み」=方法論をアーツマネジメントという。近年は演劇や美術、音楽などのファインアート(ハイアート)分野にとどまらず、広い意味での創造活動を発信する方法論をも指す言葉となった。

アーツマネジメントは、地域活性化(まちづくり)の手法としても活発に行われている。本講義では、この言葉が欧米において登場した経緯から日本への流入、そして日本での独自の発展までを、事例を挙げながら説明する。

### ●到達目標

アーツマネジメントに関する実践的な知の習得を目標とする。但し、必ずしもアーツマネジメントの実践者を養成するための学びには限定しない。この学びを通じて、自らの学問的専門分野に生かせる気づきを得、自らの視野を広げるための眼を養うことを目標とする。具体的には、上記の学びをレポートやグループワークを経てのプレゼンテーションで示すことができるようになる。

### ●授業内容・授業計画

第1回 イントロダクション:アーツマネジメントとは何か

第2回 「アーツマネジメント」の登場と日本への流入

第3回 日本におけるアーツマネジメントのはじまり:芸術文化支援制度の整備

第4回 狭義のアーツマネジメント:美術館で行う事業を例に

第5回 広義のアーツマネジメント:芸術文化の社会への発信

第6回 キーワードは「連携」:文化庁芸術文化振興基金のテーマ変遷を踏まえて

第7回 地域におけるアートプロジェクト

第8回 外部講師によるレクチャー:アートプロジェクトの事例(主に美術系文化施設における事例)

第9回 外部講師によるレクチャー:美術作家によるアートプロジェクトについて

第10回 地域アートプロジェクトを作る 1:グループワークの趣旨説明およびグループ分け

第11回 地域アートプロジェクトを作る 2:グループワーク

第12回 地域アートプロジェクトを作る 3:グループワーク

第13回 地域アートプロジェクトを作る 4:グループワーク

第14回 地域アートプロジェクトを作る 5:プレゼンテーション準備およびプレゼンテーション

第15回 地域アートプロジェクトを作る 6:プレゼンテーション(成果発表会)

美術館学芸員、図書館司書であった経験を基に、主に社会教育施設(博物館や図書館、公民館など)における様々な事例を挙げて説明する。美術館での教育普及事業やイベント、地域アートプロジェクトやこれらと観光との接点(アートツーリズム)について、後半はグループワークを実施し、グループでの企画を構想し、プレゼンテーションを行ってもらう。

### ●事前・事後学習の内容

第1回 第一回～第三回においてアーツマネジメントの概説および歴史(経緯)を講義するので、イントロダクション講義を受けた上で、自分の身近なアーツマネジメント事例を見つけ、考察する。インターネットを活用した予習、復習で構わない。

第四～第七回。事前学習は特に必要としないが、身近なアートプロジェクトに関心を持ち、自ら報告書などを読み、考察することを求める。他、参考文献なども随時紹介する。

第八、第九回。外部講師が講義する内容について事前に概略を講義し、適宜、文献やサイトを紹介するので、事前にこれを読んでおくことを求める。また事後は自らの学習を基に復習し、考察を深める。

第十～第十五回は、グループワークを実施する。グループ内で積極的に意見を述べるができるよう、プロジェクト企画の進捗に合わせて事前に準備をしておく。また事後においては、次のグループワークに備えて自らの役割を果たすべく考察を進める。

第15回 成果発表会では、他グループの発表を「評価」するシート(コミュニケーションカード兼用)を配布する。

自グループの内容を客観視し、他グループを評価することを求める。

他グループの内容を聞いた上で、それぞれに振り返りをするを求める。

### ●評価方法

本授業では任意のグループで新たなアートプロジェクトを企画する課題に取り組む。最終回(成果発表会)では、自グループの内容を客観視し、他グループを評価する他グループの内容を聞いた上で、それぞれに振り返りをするを求める。グループワークに積極的に取り組む姿勢と、企画したプロジェクトのプレゼンテーションができるようになること、を目標としており、その達成度を評価する。

評価方法としては、小レポート(各回のコミュニケーションシートにそれぞれ記す授業の感想や学び)とグループワークの成果(内訳は小レポート[授業への意欲]50%、グループワークの成果50%)。グループワークの成果とは①グループワークでの発言など参加度(各回の授業の際、教員が巡回して観察)②プレゼンテーションに用いるレジюмеとプレゼンテーション資料(提出)③グループワークを終えての気づき(果たした役割)を記したレポートを指す。グループワークの成果をまとめたレポートを以て期末レポート試験とする。

単位修得にあたっては、期末レポート試験の提出および成果が必要となる。なお2/3以上の出席(=小レポートの提出)がない場合、成績評価の対象とはしない。

●履修上の注意

特になし。

●教科書

各回、レジюмеを配布する。

●参考文献

適宜、授業資料(レジюме)に加えて授業内で紹介する。

授業科目名	2025年度後期	水曜3限	授業コード	1GAG030301
観光と文化 / [森之宮]全S				
授業形態	担当教員名			
講義	天野 景太			

### ●授業概要

世界文化遺産に象徴される歴史的な建造物や芸術作品を鑑賞したり、国際的なイベントに参加したり、テーマパークで映画に登場するキャラクターと出会ったり、民芸品を土産として購入したりなど、地域の文化との接触・交流を目的とした観光(文化観光)は、自然観光と並び現代の観光形態の主流をなしている。観光対象としての文化は、過去から現在に至るまでのその地域における人間活動の記録・記憶の象徴から、観光目的で新たに創造されたものまで、さまざまである。本科目では、こうした文化が、どのように観光資源化され、演出され、観光客に対して呈示されているのか、また、文化の観光化に伴う地域文化の変容が、地域の人々にとって、観光者にとって、どのような影響を及ぼすのか、といった視点から、観光と文化の関わりについて、具体例を挙げながら検討していく。

### ●到達目標

自らの観光体験や異文化体験について、本科目で解説された内容を参考にしながら、分析・考察出来る。文化の観光化のあり方を理解することを通じ、自らが拠り所としている文化を相対化して捉え、他者に呈示する(例:外国の友人に日本文化を紹介する・日本の文化的観光資源をガイドする、など)ためのスキルの基礎が身につく。

### ●授業内容・授業計画

#### 第1回 ガイダンス

第2回 観光と文化とのかかわり～世界遺産観光の展開を例に

第3回 観光と文化遺産Ⅰ～世界遺産の概要と世界遺産検定ガイダンス

第4回 観光と文化遺産Ⅱ～文化の継承と遺産の制度化・商品化

第5回 観光における生活文化・民族文化の呈示と消費の諸相Ⅰ

第6回 観光における生活文化・民族文化の呈示と消費の諸相Ⅱ

第7回 観光における宗教文化の呈示と消費の諸相Ⅰ

第8回 観光における宗教文化の呈示と消費の諸相Ⅱ

第9回 観光における都市文化の呈示と消費の諸相

第10回 観光アトラクションの文化史Ⅰ「タワー」

第11回 観光アトラクションの文化史Ⅱ「遊園地・テーマパーク」

第12回 観光アトラクションの文化史Ⅲ「観光鉄道・クルーズ」

第13回 観光アトラクションの文化史Ⅳ「リゾート」

第14回 観光アトラクションの文化史Ⅴ「ホテル・温泉旅館」

第15回 観光アトラクションの文化史Ⅵ「土産品」

#### 定期試験

### ●事前・事後学習の内容

第1回 シラバスを熟読し、自分にとって履修が適切かどうか検討しておく

第2回 メディアにおける世界遺産の取り上げられ方について調べる

第3回 世界遺産の基礎について授業内容や配付資料に基づき理解する

第4回 文化の保存・継承と観光の関係について自らの考え方を整理する

第5回 生活文化の類型に基づいて、身近な生活文化の具体例についてまとめる

第6回 生活文化・民族文化の呈示例を調べ、その観光効果について評価する

第7回 宗教と観光との関係に関する歴史的展開について整理しておく

第8回 宗教文化の観光化が地域や宗教者にもたらす効果について具体例を挙げながら説明出来るようにしておく

第9回 都市の解釈枠組みに基づき、任意の事例について都市文化が観光化される過程を説明出来るようにする

第10回 観光タワーの歴史的展開について理解する

第11回 遊園地の歴史的展開について理解、テーマパークの概念やその構成要素に基づき、具体的なテーマパークの企画を構想してみる

第12回 クルーズ観光の現状について、具体的なツアーのあり方を調べる

第13回 日本におけるリゾートの歴史を振り返り、将来のリゾート開発の方向性について考察する

第14回 高度成長期におけるホテル、温泉旅館文化の展開を理解し、今後の宿泊産業において求められる要素について考察する

第15回 自分の出身・居住地域における真正土産品を企画する

### ●評価方法

(1)到達目標の達成度について、授業回ごとのコメントシートにおける論述、および定期試験(論述問題)により評価を行なう。

(2) 毎回授業の最後に、コメントシートにその日の授業内容を受けての考察を記入してもらう。そのコメントシートの回答に対する評点の合計(30%)と、期末試験(70%)で評価を行なう。ただし、最終的にコメントシートの記入箇所が11箇所を下回った場合、評点にかかわらず原則としてF評価となる。なお、授業開始後30分以上遅刻した場合は、コメントシートへの記入が出来なくなる。なお、例年コメントシートの評点が高い者でも、一定数の不合格者が出ている。毎回真剣勝負のつもりで授業に臨み、考察を試み続けていなければ、期末試験には全く太刀打ち出来ないはずである。

(3) 文化の観光化について、また観光アトラクションの文化的特質についての基礎的な知識を踏まえた上で、任意の文化的事象について観光と関連づけて分析出来ることが合格のための最低基準である。

●履修上の注意

授業内容に関連する検定試験として「世界遺産検定」を本学で実施予定だが、それに関連するガイダンスと申込受付を授業内で実施する。世界遺産や就職に向けての資格取得に興味のある者は受験を推奨する。また、観光に関してより理解を深めたい者は、国際機関教育科目の「観光研究入門」や、文学部専門科目(他学部履修可)の「観光文化論」「文化資源特論Ⅰ」等を併せて履修するとよい。

●教科書

安福恵美子・天野景太『都市・地域観光の新たな展開』古今書院、2020年。ほか、毎回教場にてプリントを配布する。原則として過去の授業で用いたプリントは、後日の回で再配布しない。

●参考文献

教場にて適宜紹介する。

授業科目名	2025年度後期	火曜3限	授業コード	1GAG042301
英語で学ぶ日本事情 / [森之宮]全S				
授業形態	担当教員名			
講義	坂 知尋			

●授業概要

This course introduces Japanese art and culture from the ancient through the twentieth century. Taking a historical and interdisciplinary approach, the course aims to achieve an in-depth understanding of Japanese culture. Topics covered in the course include Ainu culture, Ryukyuan culture, religious beliefs, sculptures, religious and genre paintings, and ceremonies. This course also offers students opportunities to learn from first-hand experience.

●到達目標

In this course students will gain an in-depth understanding of Japanese culture and will be able to identify some of representative Japanese artworks. They will also become able to discuss and analyze several aspects of Japanese culture as well as related concepts and theories.

●授業内容・授業計画

- 第1回 Introduction
- 第2回 Ainu Culture and the Ainu People
- 第3回 Ryukyuan Culture and the Ryukyu Kingdom
- 第4回 Workshop
- 第5回 Fieldwork
- 第6回 Art and Belief Related to Prince Shotoku
- 第7回 Fieldwork
- 第8回 workshop
- 第9回 Pilgrimage
- 第10回 Fieldwork
- 第11回 Workshop
- 第12回 Presentation
- 第13回 Presentation
- 第14回 Presentation
- 第15回 Summary

●事前・事後学習の内容

Reading materials will be posted on Moodle. Students are expected to go through the readings and become familiar with them. Each student is required to give a short talk on a certain aspect of Japanese culture.

●評価方法

- (1) Students will be evaluated according to their understanding of Japanese culture as well as their familiarity with representative Japanese artworks.
- (2) Class participation and preparation 36%, fieldwork 24%, presentation 10%, final assignment 30%
- (3) Students are required to contribute to discussions in class by using knowledge and information from lectures and assigned readings. Also, making a presentation on their final assignment is mandatory.

●履修上の注意

Because sessions are delivered in English and assignments must be completed in English, students are expected to have a reasonable command of the language. Students are responsible for transportation and entrance fees when attending fieldwork. Regarding entrance fees, it is estimated that the total cost will be about 2,500JPY.

●教科書

Readings and other related materials will be posted on Moodle. Students are expected to go through the readings and materials, and become familiar with them.

●参考文献

Readings and other related materials will be posted on Moodle. Students are expected to go through the readings and materials, and become familiar with them.

授業科目名	2025年度後期	金曜3限	授業コード	1ABXZ91010
古文書読解(初級)				
授業形態	担当教員名			
講義	渡邊 祥子			

●授業概要

江戸時代の古文書を解読する科目です。大坂で合薬屋を経営する有力な商人であった、吉野五運に関する史料を解読していきます。くずし字が読めるようになることに重点を置きますが、解読した文章の内容を理解することを通じて、その史料が作られた目的や意義など、史料自体に込められた意味についても考えていきます。

●到達目標

- ・基本的なくずし字を解読し、現代の文字で筆写できるようになる。
- ・解読した文章の現代語訳ができるようになる。

●授業内容・授業計画

第1回 史料画像の配布・授業の進め方の説明・「吉野五運文書」についての概要説明

第2回以降

毎回、古文書史料(写真画像)の文字を解読することを通して、くずし字の読み方を学び、現代語訳も確認していきます。履修者の習熟度に合わせて史料を読み進めていき、史料についての理解を深めていきます。

●事前・事後学習の内容

事前学習は強制ではありませんが、古文書の写真画像をあらかじめ配布するので、自分で取り組んでみたい人は予習してください。写真のくずし字を解読して現代の文字で筆写し、現代語訳も考えて書き記して、次の授業時に持参してください。分からない部分は空白のままでもかまいません。

●評価方法

講義終了後に、履修前よりも解読や現代語訳の能力が上がっていれば合格とします。

●履修上の注意

特になし

●教科書

毎回、史料画像およびレジュメなどを、必要に応じて配布します。

●参考文献

- ・児玉幸多編集『くずし字用例辞典 普及版』(東京堂出版)
- ・児玉幸多編集『くずし字解読辞典 普及版』(東京堂出版)

今期の講座だけのためなら、参考文献を購入する必要はありませんが、継続的に古文書に親しまたい方は、くずし字辞典は一冊は手もとにあるほうが便利だと思います。ここに挙げた以外のものでもかまいませんので、少し慣れたところに、実際に中身を見てみて、自分が使いやすいと思うものを選んでください。

授業科目名	2025年度後期	木曜3限	授業コード	1ABXX22010
総合文化実践演習				
授業形態	担当教員名			
演習	天野 景太			

### ●授業概要

履修者各自の地元、あるいは大阪市およびその周辺地域を対象として、インタープリテーション(ガイド)の企画と実践、ガイドマップの作成、観光モデルコースのデザイン、などをワークショップ形式で行う。出来上がった成果物は、ボランティアガイドの方々にとっては、各自の実践活動に役立てていただけるようなものを目指す。履修者の人数により、ガイドマップづくりやモデルコースづくりに関しては、数人のグループ単位で実施する可能性もある。

### ●到達目標

着地型観光の企画、フィールドワーク、観光メディアの編集、観光モデルコースのデザインなどの総合的な実践を通じて、地域資源の発掘、魅力の洗い出し、他者への呈示の工夫など、自身が観光文化の担い手として活躍できるための基礎的な素養を体得していただくことを目指すものである。そのため、観光・旅行に興味があったり、観光業界への就職を目指す学生のみならず、文化の発信、異文化コミュニケーション、インスタグラム、まち歩き、イベントの企画や運営、広告などに興味を持つ学生の履修も歓迎する。

### ●授業内容・授業計画

第1回 オリエンテーション

第2回 観光文化を創造する・地域文化のリアリティへの感応力を磨く！（講義形式）

第3回 観光の魅力の洗い出しから文化の呈示の実践（講義形式）

第4回 フィールドノートから地域文化の呈示へ（実習）

第5回 インタープリテーション(ガイド)の実践(1)（発表と討論）

第6回 インタープリテーション(ガイド)の実践(2)（発表と討論）

第7回 観光メディアをデザインする～絵地図をつくる（講義形式）

第8回 ガイドマップづくり（実習）

第9回 ガイドマップのプレゼンテーション(1)（発表と討論）

第10回 ガイドマップのプレゼンテーション(2)（発表と討論）

第11回 観光行動をデザインする～まち歩きのデザイン（講義形式）

第12回 観光モデルコースとまち歩きツアーの企画（実習）

第13回 観光モデルコースとまち歩きツアーの企画(1)（発表と討論）

第14回 観光モデルコースとまち歩きツアーの企画(2)（発表と討論）

第15回 まとめと振り返り

授業は3つのパートに分けて行われる。第一に、地域資源の発掘と呈示の実践として、地元を歩きその地域の文化的実態を観察、記録、さらにそれらの魅力を観光客などの訪問者に呈示するための工夫を考え、発表する。第二に、観光ガイドマップの作成の実践として、各自のなじみのある地域をプリントメディアに表現することで、地域文化を呈示する工夫を考え、発表する。第三に、観光モデルコースの企画の実践として、多様な文化的背景をもつ観光客に対して、周遊旅行やまち歩きのプロデュースを想定したプランをデザイン、発表する。また、履修者の関心に応じて、旅行会社のツアープロデューサーなど観光実践の第一線で活躍されている方をゲストスピーカーとして招聘することも検討したい。

### ●事前・事後学習の内容

授業内容に示したとおり、授業全体を通じて、最低3回の成果発表が求められる。そのための現地取材を含む下準備、資料の作成、発表後に得られた知見に基づく事後の修正やさらなる完成度の向上が、主たる学習内容である。

### ●評価方法

到達目標の達成度について、具体的には各パートにおける発表と討論を中心に評価する。具体的には、実習の成果および発表(70%)、討論への参加度(30%)に関して加点方式で評価を行う。ただし、出席率が70%を下回った場合、および3つのパートにすべてにおいて発表がなされなかった場合、原則としてF評価となる可能性がある。3回の発表を通じて、自身の観光実践や観光文化に対する視点に新しい視点や理解をなすことが単位認定(大阪文化ガイド+講座の受講者においては合格)の最低基準である。

### ●履修上の注意

授業時間は、主に各自の成果物の発表と討論の場となる。そのため、ガイドマップやガイド資料などの制作のための現地取材、観光パンフレットなど既存のメディアのレビューなど、授業時間外に於ける各自の活動が多くウェイトを占める。そのための相応の時間的、場合によっては金銭的な負担が発生することを了解の上、履修を検討されたい。

\*「大阪文化ガイド+講座」受講者の方へ：本科目と他の科目との関係ですが、「大阪の地域・文化実践演習」や「歴史のなかの大阪」などの科目の受講を通じて得られた個々の大阪の歴史や文化に関する知識を、第一に、観光プロデューサーという視点から捉え直してみることで、第二に、個々の観光スポット(点)をマップやトラベルプランに展開し、線や面として表現することが、(本科目の)眼目です。

### ●教科書

安福恵美子・天野景太『都市・地域観光の新たな展開』古今書院、2020年。ほか、適宜資料を配付する。

●参考文献

観光文化の呈示の実践に関する参考文献として、西村幸夫編著『観光まちづくり：まち自慢からはじまる地域マネジメント』学芸出版社、などがある。その他参考文献は授業時に紹介する。

授業科目名	2025年度前期	木曜5限	授業コード	1ABXX21010
大阪の地域・文化実践演習				
授業形態	担当教員名 天野 景太、渡辺 健哉、北村 昌史、伊地知 紀子			

### ●授業概要

「大阪の社会・歴史・文化の再発見」をテーマとする。大阪市およびその周辺地域を対象として、地域の特色ある社会、歴史、文化について複眼的な視点から実践的に学ぶ科目である。近年、地域の社会的・地理的な実相、あるいは地域に存在する有形・無形の文化的所産を(再)発見・(再)評価し、それらを地域の魅力として、いかに活用・発信していくかが、都市の社会課題解決や活性化にあたって重要な課題となっている。また、その際には、あわせて行政、地元企業・団体、住民など、地域に関わる様々なアクターによる多種多様な取り組みが、新たな都市居住や都市文化の魅力を創出し、地域の再生・発展に寄与しうるポテンシャルを有しており、そうしたアクターの参加と協働が鍵を担っている。本科目は、東洋史学(渡辺)、西洋史学(北村)、社会学(伊地知)、文化資源学(天野)の各専修に所属する4名の教員が交代で登壇し、教室での座学ののち、現地でのエクスカージョン(視察)を実施する。(科目コーディネーター:天野)

### ●到達目標

各教員の設定した大阪の特色ある地域・文化の諸相に関する4つのテーマについて、座学を通じて理解した上で、大阪市内およびその周辺各所を実際に巡りながら、①地域・文化に関する現状把握、②フィールドワークを通じた地域社会・地域文化の再発見、③受講生相互の意見交換を行う。このプロセスを通じて、大阪の地域的特色や、大阪に存在する有形・無形の歴史・文化的所産の活用方法を考え、さらにはそれらのガイド活動やまちづくり事業への生かし方を考察し、地域の課題解決や活性化に対する提言を行う知見を得ることができる。

### ●授業内容・授業計画

第1回 ガイダンス(天野) 4/10

第2回 【テーマ①】座学編 大阪に残る中国の美術品(渡辺) 4/17

第3回 【テーマ①】現地編 大阪に残る中国の美術品(渡辺) 大阪市立東洋陶磁美術館または和泉市久保惣記念美術館 4/19

第4回 同上

第5回 【テーマ②】座学編 大阪のモダニズム建築(北村) 5/8

第6回 【テーマ②】現地編 大阪のモダニズム建築「生駒山上遊園」(北村) 5/10

第7回 同上

第8回 【テーマ③】座学編 大阪の地域史から学ぶ多文化共生(伊地知) 6/12

第9回 【テーマ③】現地座学編 大阪の地域史から学ぶ多文化共生「大阪コリアンタウン歴史資料館」(伊地知) 6/14

第10回 同上

第11回 【テーマ④】座学編 サヨナラ杉本キャンパス～住吉の歴史地理(天野)7/3

第12回 【テーマ④】現地編 サヨナラ杉本キャンパス～住吉の歴史地理「住吉大社～熊野街道～帝塚山」(天野) 7/5

第13回 同上

第14回 現地実習の振り返り座談会(天野) 7/10

第15回 全体の振り返りとまとめの発表(天野) 7/17

### ●事前・事後学習の内容

それぞれの教員のテーマに基づく座学の際、コミュニケーション・カード(授業の感想や学びを記す)を提出してもらうとともに、現地視察に際して事前に理解しておくべき事項について予告することがある。履修者は、事前にそれらの内容を確認し、現地視察に臨むこととなる。また、現地視察の実施後には当日観察したことやそれに関連した学習内容をまとめた発表およびレポートを課す。したがって、現地実習終了後には、各自の視点から捉えた視察の要点や観察の内容を整理することが事後学習として求められる。なお、上記の事前事後学習にはおおむね4時間程度の時間を必要とする。

### ●評価方法

到達目標の達成度について評価を行う。その内訳は、座学後に提出するコミュニケーション・カードおよび各担当者の現地実習の振り返りの小レポート(各テーマで15%、計60%)、および 期末レポート(40%)により評価する。大阪の地理的、歴史的、社会的、文化的特色について、多角的な視点から解説するための基礎的な素養が身につけていることが単位取得の最低要件となる。

### ●履修上の注意

本科目は、文学部共通の専門科目であると同時に、地域の社会人、特にボランティアガイド等で活躍されている方々を対象とした大阪公立大学文学部履修証明プログラム「大阪文化ガイド+講座」の選択科目となっている。また週末に現地視察を実施するため、この科目は日程が変則的となっている(座学(時間割上の曜日・時間で実施)7回、現地実習(週末実施)4回)ので、履修の際には注意しておくこと。なお、現地実習1回分を座学2回分として換算する。また、各回の授業内容において示した日程は変更となる場合がある。

●教科書は特に用いず、参考文献は適宜教場にて照会する。

授業科目名	2025年度後期	月曜3限	授業コード	1ABXX20010
日本文化発信のための英語				
授業形態	担当教員名 平田 和義			

### ●授業概要

日本の文化や宗教に触れながら、外国人観光客の目線で英検2級程度の英語を用い、大阪の観光を軸に日本文化を発信する方法を考察します。具体的にはガイドやスピーチ(プレゼンテーション)を扱います。講義やワークショップでは、観光のコミュニケーションについて考究しながら、英語表現のスキルを向上させます。学外での実習(日曜日3回を予定)では、各人がガイドングを想定した発表を行います。英語話者を招致するワークショップでは、細かなニュアンスを的確に伝えたり、日本文化を魅力的に伝えるテクニックを習得します。これらを通して、各人の英語ガイドングやスピーチのスタイルを構築するサポートをします。

### ●到達目標

日本の文化、伝統、歴史などを通して、名所(基本的には大阪)を基礎的な英語で十分に説明できるようになる。諸外国の方が、日本のどのような所に興味を持たれるのかを考究しながら、おもてなしの精神やホスピタリティについて理解を深め、観光における円滑なコミュニケーションを取れるようになる。

AIによる自動翻訳・通訳機能によって、日本語が手軽に英訳されますが、英語話者の理解とこちら側が意図した内容との差異が見られます。本講義の学びにより、文化背景やコンテキストが異なる人々と意思疎通を図る場面での、異文化間のコミュニケーション能力を基礎とした、英語での発信ができるようになる。

### ●授業内容・授業計画

#### 第1回 ガイダンス

- ・最新の観光業界の動向
- ・今後のインバウンド
- ・英語のワークショップ

諸外国の方にとっての日本の魅力や不思議について触れ、使える英語表現を学ぶ

#### 第2回 大阪の魅力 講義とワークショップ

- ・大阪独特の文化や慣習、名所を英語で表現

#### 第3回 大阪の食いだおれ文化 講義とワークショップ

- ・和食が世界無形遺産となったことを背景に、大阪の食文化を理解し、世界へ伝える英語を考究、実践的な演習を行う

#### 第4回 大阪の食いだおれ文化 ★現地実習／英語で発表(日曜日)

- ・心斎橋・難波エリアで実際にガイドングを行う

#### 第5回 大阪の食いだおれ文化 フィールドワークの振り返り

#### 第6回 住吉大社 講義とワークショップ

- ・日本人の信心とは
- ・諸外国の宗教との相違点と共通点
- ・自然崇拜、お祭り、地域コミュニティの中での神社

#### 第7回 住吉大社 ★現地実習(日曜日)

- ・講義とワークショップを基に、境内の担当箇所を英語で案内してもらいます

#### 第8回 四天王寺 講義とワークショップ

- ・聖徳太子の目指した社会
- ・日本人の心の中に根付いている和の精神

#### 第9回 四天王寺 ★現地実習(日曜日)

- ・講義とワークショップを基に、境内の担当箇所を英語で案内してもらいます。

#### 第10回 住吉大社と四天王寺の現地実習の振り返り

#### 第11回 中間確認テスト

#### 第12回 茶道 講義とワークショップ

- ・茶の湯の精神世界
- ・おもてなしの心
- ・日本人の美的センスとは
- ・わび・さび

#### 第13回 オンラインやデジタル活用による、英語での日本文化の発信

- ・zoom、グーグルマップ、アプリ等を活用したオンラインでのガイドングについて

#### 第14回 オンラインやデジタル活用による、英語での日本文化の発信 実習

- ・zoom、グーグルマップ、アプリ等を活用したガイドングの実習

#### 第15回 まとめ

- ・1学期間の振り返り(総復習)
- ・今後、継続すべき学習方法の考察

●事前・事後学習の内容

- 第1回 【事前学習】基礎的な英語で自己紹介ができるように、200字程度の手紙を書いておくこと
- 第2回 【事前学習】大阪の魅力を発信するための材料を準備すること(詳細は第1回講義で説明がある)
- 第3回 【事前学習】大阪の名物料理や料理屋を1つ選び、英語で紹介できるように準備しておくこと(1名3分程度)
- 第4回 【事前学習】現地実習の準備
- 第5回 【事前学習】実習を撮影した動画を観ておくこと
- 第6回 【事前学習】神社について、英語で手短かに説明することができるようにしておくこと(1名3分程度)
- 第7回 【事前学習】実習の準備
- 第8回 【事前学習】寺について、英語で手短かに説明することができるようにしておくこと(1名3分程度)
- 第9回 【事前学習】実習の準備
- 第10回 【事前学習】実習の様子を撮影した動画を観ておくこと
- 第11回 【事前学習】中間確認テストの準備
- 第12回 【事前学習】もてなしや茶の湯の世界で使用する英語について調べておくこと
- 第13回 zoom等のアプリのインストール
- 第14回 【事前学習】実習の準備
- 第15回 【事前・事後学習】これまでの講義や実習を振り返り、自身の課題を見つけること

●評価方法

<評価方法>

- ①全4回の実習発表(到達目標の達成度) 40%
- ②授業中の学習意欲 30%
- ③授業内の中間試験 30%

上記の3点の内容から、以下の3点で評価をします。

- ・案内人として心得を理解しているか
- ・コミュニケーション能力の上達が見られるか
- ・日本文化を発信するための工夫があるか

<合格(単位取得)のための基準>

全4回の発表内容は到達目標の達成度を評価します。伝わりやすい英語表現を使用しているかと、日本文化を発信するための工夫があるか、ガイディングとしての英語スピーキング力を主な基準とします。

●履修上の注意

\*英検2級程度が望ましい。

\*全国通訳案内士資格保持者は、受講対象外とします。

●教科書

毎回、授業開始時に参考資料を配布します。

マップ、リスニング教材、授業によっては要点をまとめたプリントなど

●参考文献

英語で伝える日本文化に関する資料を適宜配布します。参考文献についても、テーマごとに授業中にご紹介します。

授業科目名	2025年度前期	木曜3限	授業コード	1ABDD02010
観光文化論／観光文化論				
授業形態	担当教員名			
講義	天野 景太			

### ●授業概要

本科目では、文化資源の社会的運用のあり方に関して扱う科目群のうち、観光文化を中心とした地域文化資源領域におけるあり方を中心に講義する科目である。観光を文化現象として捉え、現代観光の文化的な特質について、関西を中心とした国内外のさまざまな事例に基づきながら考察する。具体的には、「現代日本・大阪におけるニューツーリズムの観光文化論」をテーマとする。観光文化とは、観光者や観光事業者といった主体が紡ぎ出す観光経験や観光形態の諸相、あるいは、観光を通じた文化の交流等により生成、展開していく地域文化の諸相のことで、場所や時代によってさまざまな展開をみせている。特に近年においては、「見物」や「遊楽」といった昔ながらの観光スタイルだけではなく、各地で体験型観光や地域独自の魅力の発掘、持続可能な観光の推進などに象徴されるような新しい観光文化(ニューツーリズム)のあり方が模索されている。本科目では、これらの文化的な特質の解読を通じて、観光文化のダイナミズムに関して検討する。

### ●到達目標

授業の内容を自らの身近な地域において展開する具体的な観光文化の考察に敷衍することで、観光文化の多様性に関して理解を深めることができる。また、近年政府(観光庁)の施策としても「ニュー・ツーリズム創出・流通促進事業」が推進されるようになったが、それらの批判的検討を含め、観光を一つの文化現象として総合的、相対的に捉える視点を獲得できる。さらに、文化ガイドなど、地域における観光文化の担い手として実際に活躍するための素養を身につけることができる。観光における文化変容のダイナミズムを捉えるセンスを養うことができる。

### ●授業内容・授業計画

- 第1回 イントロダクション～現代における観光文化の諸相と変容
- 第2回 飽くなき食文化の探求～フードツーリズム
- 第3回 “ストレス解消”から“ウェルネス”の探求へ～ヘルスツーリズム
- 第4回 大阪・関西万博開催のインパクト～イベントツーリズム
- 第5回 「聖地巡礼」の構造転換～コンテンツツーリズム
- 第6回 「大人の社会科見学」は浸透するのか?～インダストリアルツーリズム
- 第7回 国際的観光地としての日本橋・心齋橋・道頓堀～サブカルチャーツーリズム
- 第8回 昭和の追憶と郷愁の彼方へ～レトロツーリズム
- 第9回 千社詣からドラクエウォークまで～ゲーミングツーリズム
- 第10回 被災記憶の継承から復興への願いをかたちに～ダーク/ボランティアツーリズム
- 第11回 観光行動が「エコ活動」となるのか?～エコツーリズム【1】
- 第12回 観光振興と環境保護は両立できるのか?～エコツーリズム【2】
- 第13回 「廃」なるものの固有価値を求めて～ヘリテージツーリズム
- 第14回 観光を通じた都市と農村の交流～グリーン/ブルーツーリズム
- 第15回 総括～日本・大阪における現代観光文化の展開

### ●事前・事後学習の内容

全回を通じて、ニュースなどを通じて日頃から講義内容に関連する観光に関する動向についての情報収集を行ってほしい。その上で事後学習として、授業内容を参考に自身で構想するニューツーリズムの企画や、実施の可能性についてのシミュレーションが求められる。

### ●評価方法

到達目標の達成度について評価を行なう。毎回、講義される観光文化のあり方について、的確に理解し、具体例を想起するとともに考察出来ているのかが評価のポイントであり、それが出来ることが単位取得の最低条件である。

毎回の授業の最後に、コメントシートに授業内容を受けての自らの考察を記してもらおうが、そのコメントシートへの回答内容(30%)と、中間レポート(35%)、期末試験(35%)により評価する。ただし、コメントシートへの回答数が学期を通じて10回未満の場合、中間レポートや期末試験の評定にかかわらず、原則としてF評価となる。なお、授業開始後30分以上遅刻した場合、コミュニケーションペーパーの回答権を失う。

### ●履修上の注意

本科目は文化資源コースの選択必修科目であると同時に、社会人向けの大阪市立大学文学部履修証明プログラム「大阪文化ガイド+講座」の必修科目となっている。この意味で、大阪を中心とした関西の事例を取り上げ、身近な地域における今後の観光文化のあり方について考えてもらえることを意識しつつ講義を展開する。また授業中に写真や映像などのビジュアルな資料を豊富に呈示する。板書はほとんど行わないので、講義内容をリアルタイムに考察、整理しながらメモをとっていくことが求められる。受講者は単に授業の内容を記憶するだけでなく、授業の内容と自分の過去の観光体験等とをリンクさせつつ、理解・考察する姿勢をもって授業に臨んでもらいたい。また、観光や異文化コミュニケーションに関してより深く探求したい学生は、観光現象に関してより複眼的な視野を獲得する意味で「文化資源特論A」「日本文化発信のための英語」「大阪の地域・文化実践演習」、国際機関教育科目の「観光研究入門」「観光と文化」などを並行履修することを推奨する。

●教科書

安福恵美子・天野景太『都市・地域観光の新たな展開』古今書院、2020年。

●参考文献

毎回教場にてプリントを配布する。参考文献は、必要に応じて授業中に紹介する。また、観光文化に関するup to dateな話題は、新聞やインターネット等を通じて入手されたい。